令和7年
46号
4月

群馬抑制廃止研究会だより

Gunma Yokusei Haishi Kenkyukai

群馬県身体拘束廃止推進事業

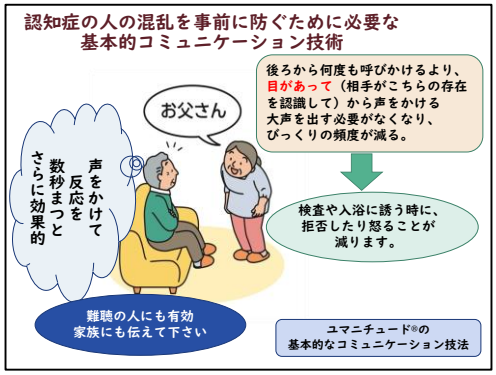
令和６年度 身体拘束廃止に関する研修会 報告

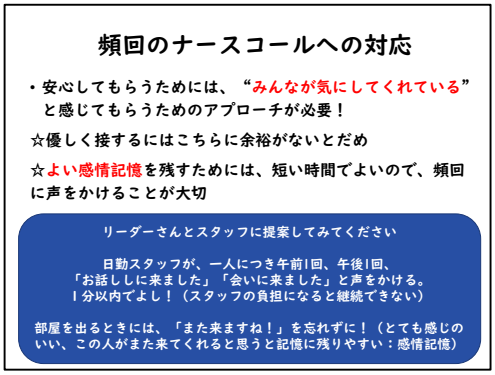
群馬県内の高齢者施設における認知症ケアの質の向上を推進するために行われる研修です

① 基礎研修　日時：令和6年 9月26日(木)
② 中堅研修　日時：令和6年10月18日(金)
③ 基礎研修　日時：令和6年11月28日(木)
④ 中堅研修　日時：令和6年12月19日(木)
⑤ 中堅研修　日時：令和7年 1月16日(木)
※今号は研修会④⑤の内容を掲載いたします

第4回中堅研修

講　　義　「BPSDの出現・悪化を回避するためのケアの考え方：不同意メッセージ」
群馬大学大学院保健学研究科　教授 伊東 美緒 先生





研修会に参加して（幹事 桑原 沙織）

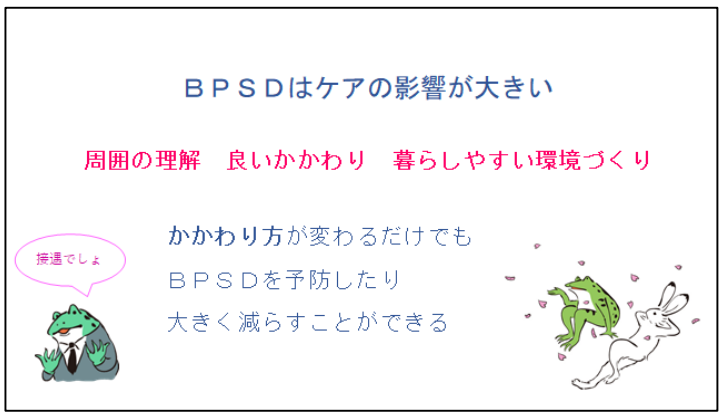
令和6年12月19日に開催された身体拘束廃止に関する研修会では、「BPSDの出現・悪化を回避するためのケアの考え方：不同意メッセージ」という内容で、群馬大学大学院保健学研究科教授の伊東美緒先生をお招きました。はじめに、認知症の人にかかわる際に知っておいてほしいこととして、認知症のタイプや使用される認知症薬の副作用から易怒性や胃腸障害が起こり薬剤の過剰摂取に繋がってしまうこと、身近でかかわりの多い介護職員が異変にきづくことが大切だと話されていました。ケアの方法も口を開けない人に無理やり食べさせたり、入浴拒否の人を無理やり入浴させることは虐待にあたり、認知症が進んでいる人は職員のかかわり方が認知症を進めており、嫌がることを無理強いしないこと、頑張りすぎないことでお互いストレスフリーになるようです。ケアの方法は、時には家族を説得してみることも大切だと話されていました。

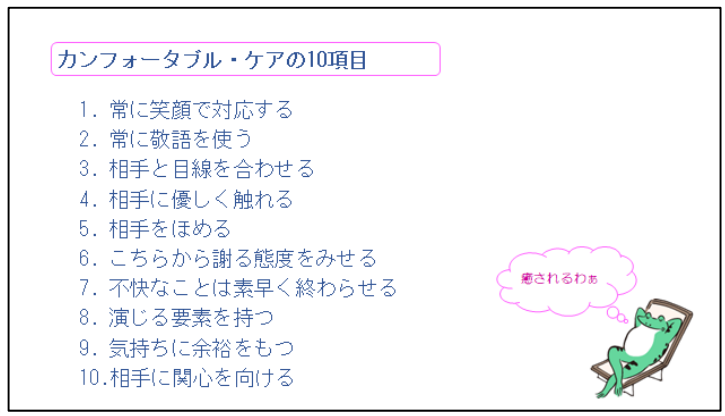
不同意メッセージには普段のケアの中で見かける場面が多く、誰もが一度は不同意メッセージにきづかず接しているものでした。多忙な中で認知症の人とのかかわりも業務優先になってしまう接し方や、声かけの仕方も大きな声や後ろから声をかけてしまい驚かせてしまった経験もありました。色々な場面での拒否は認知症の人の意思表示であり、コミュニケーションの方法を変える必要があります。具体的には声かけの前に目を合わせて自分の存在を認識してもらってから会話をする。毎日、ケアを始める前にあいさつの時間を作る。大きな声を出さない工夫でジェスチャーや筆談を取り入れる。さらに、スピード感が相手を驚かせてしまうため、声をかけてから3秒間待つことが大切です。暴言・暴力がある人に対しても、恐怖心から避けてしまう傾向になりがちですが、気を引くために行為がエスカレートしてしまうこともあるため、職員みんなで「気にかけてくれている」というよい感情記憶が残るようにすると表情も変わり接しやすくなります。よいケアを職員全体で実践し、認知症の人から選ばれる「いい人」になれるように、一人ひとりに時間をつくり向き合っていきたいと思いました。

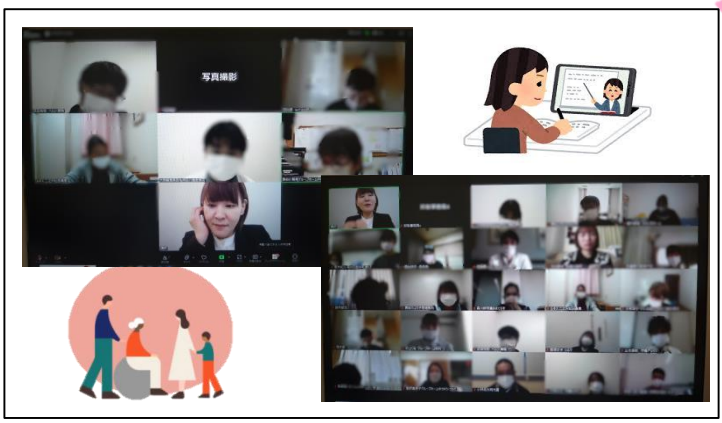
第5回中堅研修

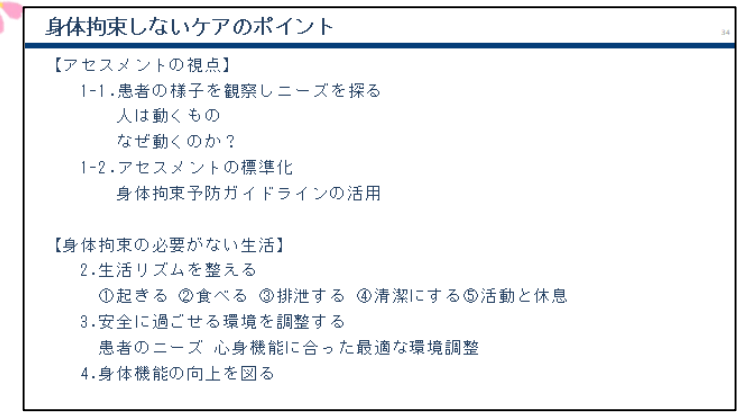
講　　義　「困難事例への対応～高齢者の尊厳を守るケア～」

公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院
認知症看護認定看護師　　宮原 友紀 先生









講師からのコメント（宮原 友紀）

令和7年1月16日、令和6年度身体拘束廃止に関する研修会中堅研修の講師を務めさせていただきました。研修ではまず高齢者のケアに必要な①心構え②知識③技術の3つを講義形式でお伝えしました。①心構えについては、「老いては子に従え」など我が国において高齢者の尊厳が脅かされやすい状況を知り、高齢者の尊厳を守るとは？について考えていただきました。②知識では、代表的な認知症4つの特徴について学び、それぞれの病気の特徴を知ることで同じ「食べない」人への対応でもアセスメントの視点やケアが異なるということを学んでいただきました。③技術では、認知症の人へのかかわり方について、精神科の看護師が提唱した看護技術カンフォータブル・ケアの中から10個の技法をお伝えしました。

心構え・知識・技術を習得したあとは、グループワークで困難事例への対応として「経管栄養チューブの自己抜去がありミトンを使用しているAさん」の身体拘束解除にむけて、できることを話し合いました。身体拘束予防ガイドラインのアセスメントの視点や、ケアの方法を参考にしながら皆さん活発にディスカッションをしており、身体拘束解除にむけてすぐにできることに加えて、長期的な視点での対応など多くの意見が出ていました。

最後に認知症ケアは、「昨日はうまくいったのに、今日は怒らせてしまった」など一筋縄ではいかないことが多いですね。でも、皆さんが対応に困る認知症の行動心理症状は、適切なかかわり方で予防できることがわかっています。その人を大切に思う気持ち、それをしっかり伝わるように言葉や態度で示すことが重要です。難しいことはなにもありません。今から笑顔で「あなたがいてくれてうれしいです」と伝えてみてくださいね。

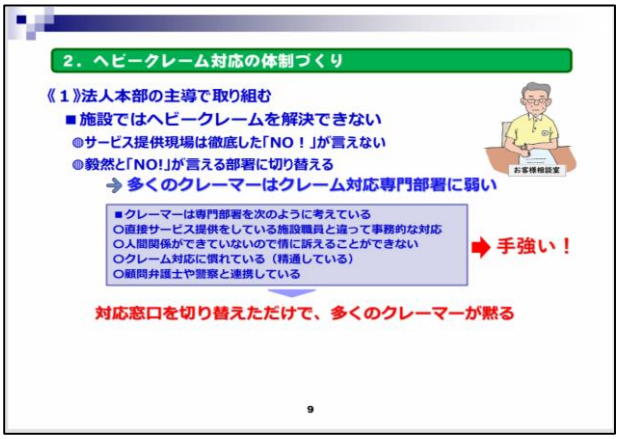
令和6年度 群馬県身体拘束廃止推進事業

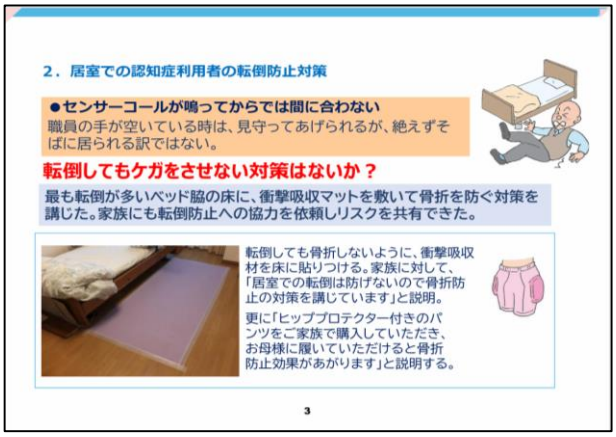
「身体拘束廃止に関する研究会」報告

【オンライン開催 視聴期間：3月10日～3月20日】

講演Ⅰ　「家族からのヘビークレームへの対応策－カスタマーハラスメント対策－」
講演Ⅱ　「安全な介護セミナー 認知症ケアのスキルを活用した事故防止対策」

講師　株式会社安全な介護
代表取締役　山田 滋 先生





研修会に参加して（幹事 阿部 亨祐）

株式会社安全な介護の代表である山田先生による講義動画、「家族からのヘビークレームへの対応策ーカスタマーハラスメント対策ー」を視聴しました。昨今では、飲食業や販売業などにおいてカスタマーハラスメントが多く存在し、メディアでも取り上げられています。講義動画で医療・福祉業界は断トツの1位で、2位飲食業の倍以上の悪質クレームがあるということでした。介護保険制度や施設入所に対するイメージが変わってきているように感じます。例えば、「お金を払って施設に入るのだから看てもらって当然、何でもしてもらえる」。また、老健は在宅復帰施設であるが、入所したのに家に帰らなければいけないということに難色を示す人もいます。いかに介入時に丁寧に説明することが大事であるかと改めて感じます。説明・同意を得て書面を交わすことで、クレームを防ぐケースが多いと考えられます。一番大切なのは組織としての対応です。クレームに対して対応策が明確であり、管理者、本部が対応することで大きなクレームを防ぐケースが多いと考えられます。この問題は、組織全体で考えていくことがテーマであると感じました。

さらに、「認知症ケアのスキルを活用した事故防止対策」の講義動画では、山田先生より「センサーは使わず、緩衝材、クッションなどで転倒しても大怪我にならない対策を実施している」という話がありました。当法人の関連施設では、定員40名のところ約半数にセンサーを使用しており、ホールでセンサーが鳴りっぱなしになることで、ストレスが大きくなっているという事例がありました。現場としては、転倒防止の意識が強く、センサーに頼ってしまうところがあります。それでも、センサーが鳴り駆けつけることで、転倒を防げるケースが多いことも事実です。当施設でもリスクマネジメントの勉強会を定期的に行っていますが、この動画では事例を通してより理解することができ、施設にもフィードバックしていこうと思いました。

今後、「在宅で親の介護をしていた」「親と同居している」というケースは、減少していくと感じています。そのため、クレームや施設への理解がない人も多くなっていくのではないかと懸念しています。専門職として介護施設などで勤務する私たちは、日々の業務に追われる中でも新たに学んでいく姿勢が重要です。今回の山田先生の講義は、現場で活かせる実践的な内容であり、とても有意義でした。

入会随時受付中
施設単位などでご入会いただく賛助会員と個人会員がございます

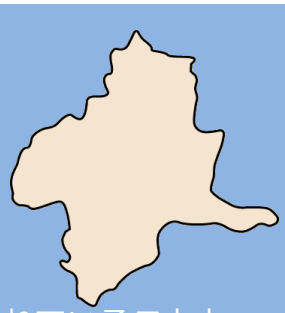
よりよいケアを、一緒に目指しませんか。

賛助会費
年会費10,000円

個人会費
年会費1,000円
入会費1,000円

◆◆◆◆◆ 群馬抑制廃止研究会 ◆◆◆◆◆

賛助会員・個人会員募集中



群馬抑制廃止研究会が設立して23年目を迎えることができました。会員の皆さまのご理解とご協力のもと、活動を継続して参りました。現在、さまざまな職種の方々に会員としてご参加いただいております。皆さまそれぞれの立場で日々大変な努力をされていることと存じます。その思いを実らせて、さらに活動の輪を広げていくことが大切だと思います。ぜひ、多くの皆さまのご入会をお待ちしております。

賛助会員施設一覧（五十音順）

特別養護老人ホーム	介護老人保健施設		病院
アミーキ	赤城苑	旭ヶ丘	伊勢崎福島病院
ヴィレージュ	アルボース	いずみの里	黒沢病院
桜桃園	ウエルライフ三愛	うららく	駒井病院
ことぶきの郷	鬼石	金山	須藤病院
サンライフアネックス	銀玲	ケアピース	角田病院
ホピ園	宏愛苑	ココン	鶴谷病院
ゆたか	聖寿園	大誠苑	冨士ヶ丘病院
	たまむら	ふじあく光荘	美原記念病院
	武尊荘	まゆ玉	吉井中央診療所
	陽光苑		

お申込み・お問い合わせはこちらから

発　行：群馬抑制廃止研究会事務局
事務局：能見・根岸・髙草木
〒372-0006 群馬県伊勢崎市太田町427-3
電　話：0270-21-2700
E-MAIL：　g-yokusei@mihara-ibbv.jp
URL：https://mihara-ibbv.jp/arbos/control/